

令和6年度 地域おこし協力隊 活動報告会

矢板市に元気を注入するため、それぞれのテーマで活動している6人の地域おこし協力隊員。この1年どんな活動をしたのか、報告会の様子を紹介します。

木製品の良さを知ってほしい

着任してすぐ、個人事業主として「果樹 woodcrafts」を立ち上げ、個性的な色・木目が特徴の果物の木を利用した木製品の製造・販売事業にチャレンジしています。令和6年度は製造と販売のサイクルを作ることを目標に、インターネット販売やマルシェへの出店、オーダー品の受け入れなどに力を入れてきました。

また、木材製材機などの設備投資をして効率化を図ったり、木製食器を作る時に使う工具をオリジナルで作製し、製品づくりの環境を整えたりしながら、新たな製品開発も進めています。この2月には、今まで作ってきた木製雑貨が矢板ブランドに認定されました。残りの任期は販路拡大に力を入れるなど事業を軌道に乗せて卒業したいです。

地元産材を使った木製品の製造・販売

室井 拓也 隊員

「半林半X」で観光農園を

ミニログハウスは、コストカットが見込めるジオデシックドームでの建築を進めてきました。また、観光農園の準備としてブルーベリーやイチジクの苗木の準備などを行ってきました。このほか倉掛地区の皆さんと協力して里地里山活動をしています。令和6年度はみんなで収穫した大豆で味噌づくりを行いました。

地元産材を使ったミニログハウス建築

佐川 一郎 隊員

「つながり」を大切に育む

都心部で開催される移住定住フェアに積極的に参加し、そこでつながった方々へ、その後もSNSなどで情報発信をしながら関係を育てることを大切に続けました。地道な作業ですがその成果として、近年、年間30件程度の移住相談件数が、令和6年度は過去最高の76件となりました。また、移住検討者と地域の方が交流しながら矢板を楽しむ「やいたび」に5人の移住検討者を集めることができました。移住者交流会は各地で開催されていますが、実際に移住検討者に参加してもらうのはとてもハードルの高いことです。今後も地域の皆さんに協力いただきながら、出会い・つながりからにぎわいの創出に繋がっていきます。

移住定住促進・交流関係人口の拡大創出

坂和 紀明 隊員

人をつなぐって楽しい！

着任してまもなく1年になりますが、これまで出会った方々をつなぎ、「TAKIBI」でさまざまなイベントを開催してきました。創業支援イベント「たねマルシェ」、環境負荷の少ない「よりみち市」、高校生・大学生などのインターン生の受け入れなど。「また行きたい」と思えるイベントになるようブラッシュアップしながら定期的に開催しています。

そして将来的には人と人をつなぐゲストハウスの運営を計画しています。長期滞在が可能な宿泊部屋やバックパッカー向けのドミトリー、地域の人でも気軽に利用できるカフェスペースなど、地域の人や市外から来た人とつながれて、いつでも帰りたいような地域の交流拠点づくりを目指しています。

地域づくり・関係人口の創出

福田 麗 隊員

目指すは地域のなんでも相談屋

ふるさと納税新制度開始以降、過去最高額の2億7,310万円の寄附額を達成したほか、地域おこし協力隊として全国初の企業版ふるさと納税を2件誘致し、協働プロジェクトを実施するなど、寄附額の向上だけでなく他方面にも貢献できたと考えています。また、栃木県内の地域おこし協力隊として初めて学校運営協議会委員やふれあい学習推進会議推進委員に選出され、活動を通じて、今の時代にフィットした地域と学生の在り方を模索してきました。

任期満了を迎える今年6月を見据え、合同会社四拾萬堂を設立してデジタル支援を行うとともに、

社長に就任するなど、独立に向けた活動も進めています。

矢板ふるさと支援センターTAKIBIセンター長
ふるさと納税の寄附額向上施策

四十万 直人 隊員

「合宿といえば矢板市」を目指して

小さいころから続けているサッカーを通じて全国各地に行くことがありますが、温かく迎え入れてくれた矢板市で、今度は私が迎える側として市のお役に立てればと思い活動しています。

令和6年度は、大学のゼミ合宿を誘致し市内企業見学で市のPRをしたり、たくさんのスポーツ団体の合宿を受け入れたりしました。今後も「合宿といえば矢板市」を目指して、地域の皆さんにご協力いただきながら、事業を前に進めていきます。

滞在型観光地づくり

貝塚 直仁 隊員